

「比べるアイテム」 を活用した 学習活動の例



「比べるアイテム」を活用した学習活動の例

例：【1・2年】順序を捉えることができる

単元名：「紹介します！わたしの仕事！～段落を比べて読み、表現の工夫を読み取る～」

教材名：「どうぶつ園のじゅうい」（光村図書：第2学年）

学習活動：段落を比べながら読み、構成や表現の相違を捉える。

①文末表現や事例に着目することで文章構成を捉え、内容の大体を読み取る。

②典型的な段落の構造を捉え、構成要素ごとに色分けする。他の段落から共通点を見付け、同様に色分けする。

③見付けた工夫があるとどんなことがよく分かるのか考えることを通して、筆者がその表現を使った意図を読み取る。

典型的な段落と比べる

一番始めに順序を表す言葉、次に仕事、その後仕事をする理由が書いてあると分かりやすいんだね！



どの段落も一番始めに時間を表す言葉が入っているよ。理由を言う時には、「そのため」や「～だから」を使えばいいんだね。

典型的な段落と他の段落を比べる際には、時間を表す言葉・仕事・理由などを項目ごとに色分けして印を付けさせることで、表現の順序などを捉えやすくします。



どう やって みを まもるのかな（東京書籍1年） うみの かくれんぼ（光村図書1年）
 だれが、たべたのでしょう（教育出版1年） しっぽ しっぽ（三省堂1年）
 ぼうしのはたらき（三省堂1年） いきものの あし（学校図書1年） ぐらしを まもる 車（学校図書1年）

例：【1・2年】順序を捉えることができる

単元名：1年生におもちゃの作り方を「分かりやすく」説明しよう～副教材と本文を比べて読み、表現の工夫を読み取る～

教材名：「しかけカードの作り方」（光村図書：第2学年）

学習活動：説明書の構成要素や順序を表す言葉を副教材から探し、同じ表現を本文から捉える。

①教科書を参考に作った、おもちゃ作りを想起させながら文章構成を捉え、内容の大体を読み取る。

②副教材と比べながら、説明するための順序や順序を表す言葉を捉える。

③見付けた工夫があるとどんなことがよく分かるのか考えることを通して、筆者がその表現を使った意図を読み取る。

副教材(書籍)と比べる

「比べるアイテム」にも作り方や遊び方が載っているね。材料や作るにかかると時間も書いてあるね。



順序を表す言葉は番号でも良いんだね。作り方には順序を表す言葉がないと正しく作れないんだね。

副教材と比べる際には同じ工夫を探させることで、レイアウトの工夫や順序を数字で表すなど、新たな書き方の工夫も見付けることができます。



ヨットカーの 作り方（東京書籍2年） ビーバーの大工事（東京書籍2年） きつつき（教育出版2年）
 紙パックで、こまを作ろう（三省堂2年）
 とべとべまわれ（学校図書2年） なにが できるかな（三省堂1年）

「比べるアイテム」を活用した学習活動の例

例：【3・4年】段落相互の関係を捉えることができる

単元名：「遊び紹介辞典を作ろう～自分で考えた事例と比べて、表現の工夫を読み取る～」

教材名：「こまを楽しむ」（光村図書：第3学年）

学習活動：自分で考えた事例を挿入するために、本文の事例の並び順を捉える。

①既習の「問いの文」の文末表現や接続語「このように」を使って文章構成を捉え、内容の大体を読み取る。

②自分で事例を考え、本文のどこに入るか考える。理由を共有し、事例の順序の工夫を読み取る。

③見つけた工夫があるとどんなことがよく分かるのか考えることを通して、筆者がその表現を使った意図を読み取る。

自分で考えた事例と比べる

ぼくはこんなこまを考えましたよ！教科書の事例の書き方を使ってどんな回り方をするのか書いたよ！



私のこまは、色変わりこまの後に入れます。作り方も簡単だし、回り方も簡単だからです。

表現の工夫を捉えた後には、筆者が最も伝えたいことを分かりやすく説明するために表現を工夫していることを押さえ、筆者の主張と表現の工夫のつながりを考えられるようにします。



くらしと絵文字（教育出版3年）
道具を使う動物たち（東京書籍3年）
人をつつむ形（東京書籍3年）

自然のかくし絵（東京書籍3年）
身ぶりのはたらき（三省堂3年）

例：【3・4年】段落相互の関係を捉えることができる

単元名：「食べ物ひみつ発見リーフレットを作ろう～自分で並べた事例と比べて、表現の工夫を読み取る～」

教材名：「すがたをかえる大豆」（光村図書：第3学年）

学習活動：筆者が伝えたい内容と相手を考えることを通して、事例の並び順を捉える。

①写真を手掛かりに文章構成（はじめ・中・終わり）を捉え、内容の大体を読み取る。

②単純な事例を並べ換え、その理由や伝えたいことを共有し、事例の順序の工夫を読み取る。

③見つけた工夫があるとどんな効果があるか考えることを通して、筆者がその表現を使った意図を読み取る。

自分で並べた事例と比べる

魚料理は簡単だということ伝えたいな。だから焼き魚・刺身・かまぼこの順で並べよう！



伝えたいことに合わせて並べ方を考えてるんだな。筆者は何を伝えなかったんだろう。



事例を並べる時には、筆者は「伝えたいこと」と「伝える相手」によって、最も効果的な順序を選んでることを押さえ、筆者の主張を考えるための手掛かりとできるようにします。



ミラクルミルク（学校図書3年）

「比べるアイテム」を活用した学習活動の例

例：【5・6年】事実と感想、意見などとの関係を捉えることができる

単元名：「説得力のある文章の書き方を知ろう～事例のある文とない文を比べて読み、筆者の表現の工夫を読み取る～」

教材名：「天気を予想する」（光村図書：第5学年）

学習活動：まとめと本文を比べながら読み、段落の役割を捉える。

① 図表を手掛かりに文章構成を捉え、内容の大体を読み取る。

② まとめと本文の文章構造を捉えることで、同じ構造になっている本文の意味段落の役割を読み取る。

③ 工夫があるときとないときを比べながら表現の工夫の必要性を捉える。筆者がその表現を使った意図を考えることを通して、筆者の主張を捉える。

まとめの4文のうち、3文目が筆者の主張だと思うな。1文目の文は天気予報のことを書いてるから、本文と同じ作りだね。

まとめと本文を比べる

科学技術が進歩しているという文がある方が、人間が、自分で天気を感ずる「すごさ」がより分かるからだと思うよ。

表現の工夫を捉えたら、必要性とともにその効果を考えることで、説明的な文章を自分で書く際にも使えるようになります。

町の幸福論—コミュニティデザインを考える（東京書籍6年） 時計の時間と心の時間（光村図書6年）
動物の「言葉」人間の「言葉」（三省堂5年）

例：【5・6年】事実と感想、意見などとの関係を捉えることができる

単元名：「ものの見方を知り、絵巻物を評論しよう～絵と本文を比べて読み、表現の工夫を読み取る～」

教材名：『鳥獣戯画』を読む（光村図書：第6学年）

学習活動：文章と図表を結び付けることを通して、事実と意見を捉える。

① 図表を手掛かりに文章構成を捉え、内容の大体を読み取る。

② 文章と対応する図表の部分を線で結んだり、囲んだりしながら、本文を事実と筆者の考えに分ける。

③ 見つけた工夫を使うとどんな効果があるか考えることを通して、筆者がその表現を使った意図を読み取る。

「秋草の咲き乱れる野」は絵に描いてあるけど、「蛙と兎が相撲をとっている」は本当かどうか分からないな。ぼくはけんかしていると思ったよ。

図表と本文を比べる

大きさや動き、色や数は見たままだね。絵に書いてあることは事実だね。思ったことや感じたことは、絵から筆者が想像したことだから、意見に入るんだね。

図表に書かれている部分は「赤」、書かれていない部分は「青」など、本文を色分けします。同じ色の線が引かれた文の共通点や違う色の線が引かれた文の相違点を見付けることで、「事実を伝える文」と「感想や意見を伝える文」の特徴を捉えることができます。

テレビとの付き合い方（東京書籍5年） まんがの方法（教育出版5年）